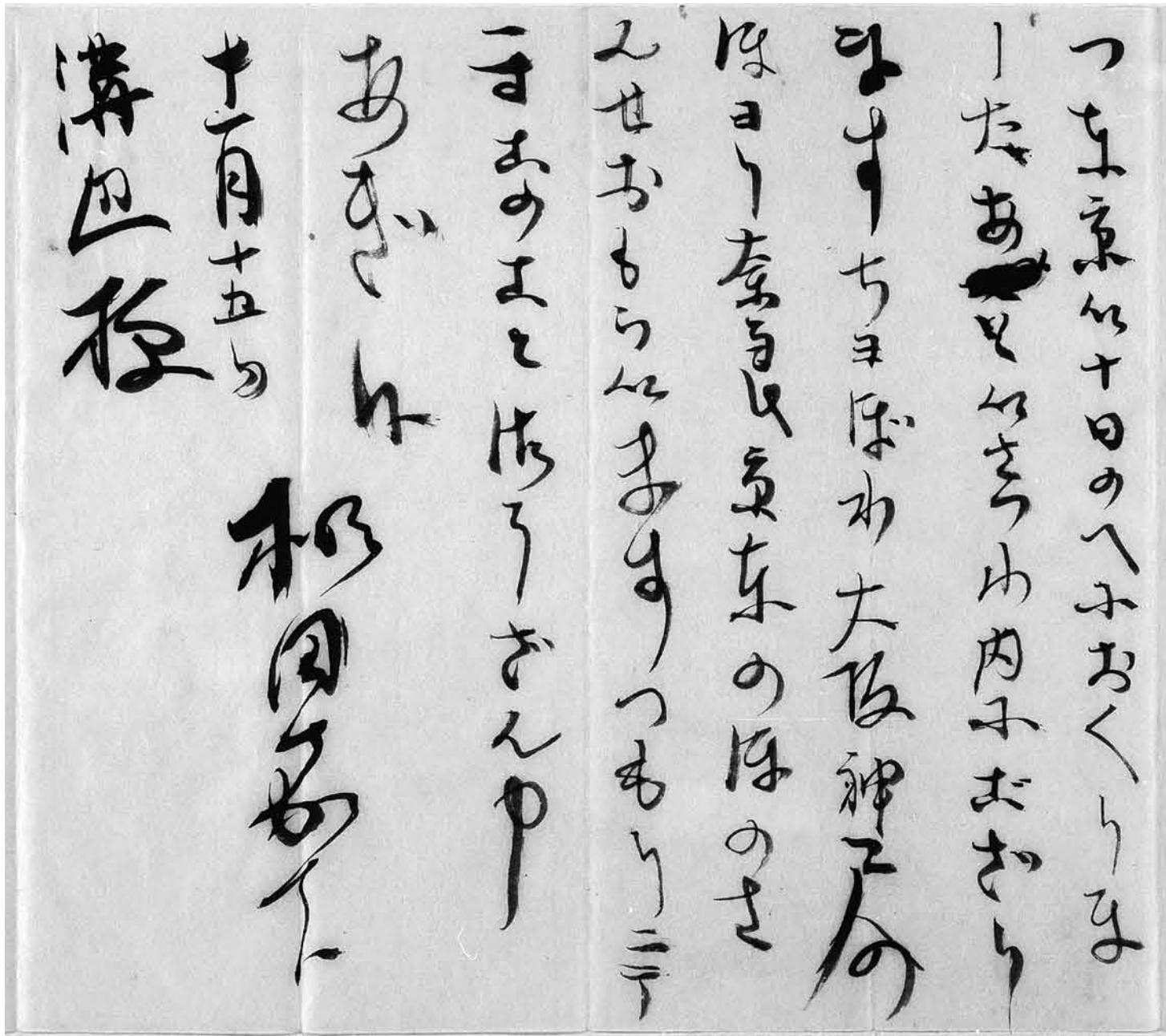


明治時代の平城宮跡保存運動の資料

下の写真は、明治時代の手紙です。読んでみてください。意味がわかりますか？一読したくらいではわからないでしょう。ずいぶんたどたどしい文字です。悪く言ったら失礼ですが、ただ、書いている本人が無筆だと言っているのですから、許してもらいましょう。この手紙は、明治時代に平城宮跡の保存運動に奔走した棚田嘉十郎の手紙です。奈良で植木屋をしていた人ですが、そのような一市民が、書けない字を書いて、一生懸命に運動している雰囲気が伝わってきます。このような資料を読み解いていくと、平城宮跡保存の歴史がわかってきます。

文字は右に示しておきました。署名簿(帳簿)に賛同の署名を集めている内容です。東京で華族の署名を集めていること、2冊目の新しい署名簿を作ったことなどが語られています。彼の最大の同志、溝辺文四郎に宛てた手紙で、溝辺家で今日まで大切に保管されてきました。右上の写真が、その署名簿の1冊目です。表紙には「平城宮<sup>へいじょうきゅうきゅうし</sup>舊趾<sup>きねん</sup>紀念翼賛簿<sup>きんぎん</sup>」とあるのですが、読めないほどに擦り切れているところに、その苦労がしのべれます。(文化遺産部 吉川 聡)

↓ 棚田嘉十郎自筆書翰(実寸大) 溝辺家所蔵



第貳号の新ちヨみん式<sup>(帳面)</sup>さ  
つこしらいまして、<sup>(其)</sup>共内一さ  
つ東京<sup>(E)</sup>い十日のへにおくりま  
した。あ<sup>(帳簿は)</sup>といさつわ内にござり  
ます。ちヨほわ大阪神戸の  
ほより奈良<sup>(京都之方)</sup>京東のほのさ  
(賛成を貰い)  
んせおもらいますつもりニテ、  
一寸このこと御そさん申  
あぎ候。  
十一月十五日 棚田嘉十郎  
溝辺様



↑署名簿の表紙(右)と署名(左) 奈良文化財研究所蔵 伯爵・子爵や県知事などの署名が見えます。

まだこりから小杉様と亀谷様  
笠原様とくわどくわいにだして百

■人(以上)のさんせおもとめて  
(う脱之)(手紙)(が来たりカ)  
やろとのてがみおきたり候。  
(帳簿は)  
ちヨはわ第貳号の新ちヨ  
(簿は)(冊)  
ぼわ貳さつ十日のへにこしらいま  
(一冊送れ)  
して、東京いもいさつおくり  
(手紙)  
とのてがみきましたので、

○「三」は古のくずし字  
○「に」は今のくずし字

○「」は志のくずし字

